

平成 28 年 11 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 28 年度第 10 回

木内信胤先生の語録を復刊しようと考えて、現在、明德出版社と打合せをしています。改めて読み直してみると、実に中身が深い、濃いことに驚きます。木内信胤先生の言われた通りに世の中が動いていると感じる部分がありますし、木内先生の言われたことと同じような言葉を、他の人の本や雑誌の対談等で見ることがあります。

1 年くらい前になりますが、木内信胤先生の本を出していた出版社に『木内信胤語録』復刊を相談しました。そうしましたら、印刷はするけれども流通には乗せられないと断られてしまった経緯があります。理由は、売れないからということでした。世の中に役に立つ本かどうかではなく、売れないから出版しないという明解な意思表示でした。

今、明德出版社とどうすれば本が売れるか案を練っていますが、問題はただ一つ、「木内信胤」という名前が世の中に知れ渡っていないことです。そこで、本の帯に「岩崎彌太郎の孫、妻は福沢諭吉の孫」と入れてはどうか等々、検討をしています。来年の年明け早々には本屋さんに並ぶように進めています。是非皆さんにも買って戴いて、感想を新聞社に送るとか、ネットのレビューに投稿するのもかなり宣伝効果があるようですので、是非投稿をお願いします。今後そのような流れで世に知られるといいなと思っています。

アポトーシスの法則

本日ご紹介する本は、『神道とひらめき』（葉室頼昭著）です。帯に、「人間の真実の在り方、日本人の本当の生き方とは何か」とあります。ある程度のレベルに達した人は、この本の中味と同じようなことを言っていると感じます。

この本の中に、アポトーシスの法則について書かれたところがあって、おかげで私はずっと疑問に思っていたことがスッと腑に落ちました。と申しますのは、私は小さい頃からキリンの首はなぜ長いのだろう？ ゾウの鼻はなぜ長いのだろう？ 鳥はなぜ空を飛べるのか？ という疑問を持っていました。本の説明を読んで、「そうか、そういうことか」と、長年の疑問が解けました。

著者の葉室さんはお医者さんで、縁あって春日大社の宮司になられた方です。私はアポトーシスという言葉を知りませんでした。医学界では常識のことだそう。先週の東

京フォーラムでは清水ドクターがおられたので、アポトーシスについて説明をして戴きました。印象に残ったのは、究極のリサイクルだとおっしゃっていました。

アポトーシスの法則とは、世の中に必要でないものは消える。人間の身体でも、必要とされない細胞は、自己認識して自己消滅する。これは宇宙の原則だと書いてあります。入院して何か月もベッドに横になっていると、足が萎えてまともに歩けなくなります。それが普通で、そういうものなのだと思ってきましたが、実はアポトーシスの法則と言い、足の細胞が自分たちは必要でないと認識し、自己消滅してしまうというわけです。

その逆で、キリンの首が長いのは上の方の葉っぱを食べようと一生懸命首を伸ばしたからで、何百年という単位で何世代にもわたってそうしていると、遺伝子が願いを達成してしまう。そのように遺伝子が作られているのです。もし、キリンが首を伸ばさなくても下の葉っぱを十分食べられる環境にあれば、何世代かの間首が短くなって来るかもしれません。

アポトーシスの法則は宇宙・大自然の原理で、神様、大自然がそのように生き物を作ったということです。ずっと疑問に思っていたことが何かのきっかけでふっと分かったと、とても嬉しいものですね。私はその日一日中、バラ色のような感覚で過ごしました。

アポトーシスの法則を人間に置き換えてみるとどうでしょうか。皆さんは奥様或いは御主人から必要とされていますか？ 人から必要とされていると、その人のためにあれをしよう・これをしようとやる氣が出ます。人から必要とされているという自覚が、その人に生き生きとした生きざまを与えてくれる。ところが、自分を必要とする人がいないと思ったなら、生きる意欲がなくなってしまいます。「世のため・人のため」と口先だけで言った場合と、自覚した場合とでは、動きが全然違います。＜私はこの人のために生きていこう＞という感覚が生まれたなら、充実した人生が送れます。

キリンの首が長いのもゾウの鼻が長いのも、神様がそのように作られた。全て、宇宙が原理原則として定めていたものだということです。煎じ詰めていくと唯一つ、「世のため・人のため」という生き方をすることです。結果として自分が充実した人生を送れる。それがアポトーシスの法則を読んで納得出来ました。

平成 29 年を干支から見る

来年は丁酉（ていゆう・ひのととり）です。「丁」という文字は、新旧勢力がぶつかり合っていることを表します。今年もぶつかり合っているわけですが、来年は新しい勢力の方が勝つ年回りです。「酉」は酒の甕です。甕の中の麴が発酵して、時が熟すという意味です。

また、革命という意味もありますから、大きく変わるということです。ですから丁酉は、時が熟して新しい時代が始まる、という意味合いを持ちます。

干支学では60年前を調べます。60年前の昭和32年を見ますと、面白い事柄が幾つかありました。時系列で申します。

- ・2月25日 岸内閣がスタート

その前は石橋内閣ですが、石橋湛山は病気で、たった2ヶ月で政権を降りています。しかし潔く政権を降りたので、非常に爽やかな印象を国民に与えたという記録があります。

- ・4月1日 売春防止法が施行

- ・6月21日 アイゼンハワー大統領と岸総理が「日米新時代来る」と共同声明

アイゼンハワー大統領曰く、「大統領は嫌いな人とでもテーブルを囲まなければならないが、ゴルフは好きな人とだけで出来るのが良い」（岸総理はアイゼンハワー氏とゴルフをしています）

奇しくも次期アメリカ大統領にトランプさんが決まりました。来年は新たな日米関係が展開されると思います。

- ・8月27日 東海村に初めて原子力の火がともる

原子力の火が日本に初めてともったのが60年前。先日、インドのモディ首相と安倍さんの会談が行われ、インドに日本の持つ原子力の技術を供与するという原子力協定に調印しました。

- ・9月20日 国産ロケット第一号が発射成功

- ・10月1日 国連の非常任理事国に当選

干支学では60年で新しく生まれると考えるわけですが、これだけ60年前の事実を並べてみると、60年で一つの周期が終わった、もう賞味期限が来たということが分かります。かつての日米の関係が終わって新しい日米関係が始まるという予感が湧いてきますし、原子力との取り組み方も新しく変わると考えられます。

他にも60年前に「主婦の店 ダイエー」がオープンしました。スーッと出てパーッと消えるからスーパーと言うのだそうですが、60年経った今、イオンが残り、イトーヨーカドーならぬセブンイレブンが残っています。イトーヨーカドーの鬼っ子として生まれたセブンイレブンが全国に広がって、本家本元の親会社も呑み込んでしまいました。わずか60年で、それだけ変わるのです。

ちなみに、60年前流行った流行歌は「有楽町で逢いましょう」です。子供さんたちは「赤胴鈴之助」です。

来年は、時代が大きく変わる年回りになります。それを表明するものとして60年前の昭和32年にあった事例を申しました。自分自身の人生も、その大きな時代の流れに乗せて変えてみましょう。明日を過去形で考えて眠れたかフォーラムでお聞きしていますが、どうぞ来年は幸福感に包まれて生きるように今晚考えて眠れば、とても良い年になるとお考え下さい。

では、恒例の質問を致しましょう。

- ここ1ヶ月間、良いが続いたと思う方
- ここ1ヶ月間、嘘をつかなかった方
- ここ1ヶ月間、有難うと言うことが多かった方

有難うと言われることが多かった方・・・こちらは若干少ないですね。人さまに何かしてあげましょう。この人は自分に必要な人だと思って貰えると、長生きが出来るかもしれません。

- ここ1ヶ月間、健康法を実践し続けている方

私は毎日自転車に乗り続けています。わずか8ヶ月ですが、足の筋肉がそれなりの筋肉になってきました。とにかく健康法は毎日実行することが良いようです。

- 昨晚寝る時に、明日以降を過去形でイメージして眠れた方

これを説明するのに、プロポーズを例に説明しましょう。明日、彼女にプロポーズしようと思っています。寝る時に、明日のプロポーズが上手くいくといいなとドキドキしながら寝るのは、願望です。プロポーズが上手くいって、結婚式までイメージが飛んで、結婚式で幸せの絶頂にいるのを実感して幸福感に包まれて眠れたなら、明日を過去形でイメージ出来たとお考え下さい。

- ここ1ヶ月間、自分磨きをよくやったと思う方

結構手が挙がりました。自分で自分を誉めてあげられるように、短くても結構ですので自分磨きの時間を作りましょう。

干支の話に戻ります。60年前をみると、その時代は先頭に立つ人が先頭切って動いているという感じがします。同時に、組織というものはやはりトップが動くのだなあと思いました。

今朝の新聞一面に、「安倍首相・トランプ氏初会談 手探りの90分」と大きく出ています。選挙中、外務省が安倍さんにあげてくる情報はクリントン候補の勝利ばかりでした。外務省がクリントンさんとの会談の調整を進めるなか、安倍さんはトランプ氏が勝った場

合を想定して、トランプ氏にも会えるよう手を打つことを指示していた。それを受けて駐米大使がトランプ陣営にあたりをつけて、ギリギリのタイミングで間に合ったわけです。トランプ氏が当選する前に会談の要請をしたのは、日本が最初だったそうです。

本来は外務省が色々な局面を想定して手を打つべきですが、それをやらなかった。安倍さんが指示してからやり出して、ギリギリのタイミングで会談が出来たとあります。そして面白いことに「成果は、会ったことだ」と書いてあります。人間は最初に貰った情報を無意識の内に重要視するし、信用してしまうものです。今回、安倍さんはかなり神経が研ぎ澄まされていたと評価出来ます。手の打ち方が、以前と比べてどんどん良くなったと感じました。

クリントンさんが優勢だと思っけていても保険をかけておくのが外務省の立場でなければならないのに、それをしなかった。こういうことは自分自身に置き換えてみればいくらかもある話です。いずれにしても早い方が勝ちですね。今、小池劇場の第二幕が始まっていますが、小池さんは相当上手く考えて手を打ったなど感じます。

ちなみに私は『陽明学のすすめ I～VI』の前書きや後書きで、何年頃にこういう事が起きるといふ予測を書いています。先日、全て読み直しましたら、平成 24 年に書いた『陽明学のすすめ V 人間学講話 渋澤栄一』の前書きに、平成 29 年は大きく変わる年であると書いていました。

日本はまだまだ景気も政治も教育も、当然のことながら経済も悪化する一方のままであり、どん底に来てそれが反転すると以前から申し上げておりますが、反転する時期は平成 29 年と考えています。

どんどん日本は落ちて反転するのが 29 年と書きましたが、今の状況はどん底まで来たという実感はありませんから、これからまだ落ちます。ですから平成 29 年の反転は、大きく変わると思いますが、どん底からの反転ではありません。

アポトーシスの法則 II

先程申しました『神道とひらめき』から、もう少しお話致します。アポトーシスの法則について、別の表現で書いてあります。「38 億年くらい前に地球上に生物が誕生し、これまで色々な生物が生まれては滅びていきましたが、環境の変化に順応できた生物だけが現在生き残っているのです」・・・大昔から生き残っている生物の絶対条件は、環境にあわせて自分を変化させられる能力を持っている。キリンの首が伸びたのも、象の鼻が伸びたのも皆、自分が置かれている環境にあわせて変えていって、何世代を経て現代まで生き残っ

ているのであって、それがアポトーシスの法則だとあります。これは医学用語で言うと、人間の身体の中で必要とされている細胞が生き残り、更に必要とされる細胞が強化される。必要とされていない細胞は、それを自覚した途端に自己消滅が始まるというわけです。

他にも、木内信胤先生が言われたことと同じようなことが書いてありました。「遺伝子を働かせるには、アホになること」・・・アホになるというのは、何に対しても理屈を言わないで無条件で反応して笑いなさい。無条件で笑える人は過去を引きずらない、とあります。これに関しては、私は抵抗があって出来ません。過去をすべて無条件で笑えるかという、なかなかそうはいきませんね。ただ、アホの条件として理屈を言わないこと、身体で感じることを、理屈で解釈しようとするの間違えるから、素直に反応するということが遺伝子をオンにするというわけです。

更に、「なぜ人は一度触れただけでわかったつもりになってしまうのでしょうか。本当に良いもの（本物）は、何度触れても毎回違う学びや発見があります」・・・同じ話を聞いても、その人の心持ちや受け取り方で、まるで違う話に聞こえる。良い話は何回聞いても違う解釈が出来て当たり前、同じ解釈しか出来ない人は発展成長がない。猪瀬理事長が日頃言っておられることと同じことが書いてあって、楽しくなりました。

論語を現代に置き換えて読む

では、論語を解説致します。本日の論語の解説は、憲問篇 46～47 です。

【四六】原壤^{げんじょう} 夷^いして俟^まつ。子曰^{しいわ}く、幼^{よう}にして孫弟^{そんてい}ならず、長^{ちやう}じて述^のぶること無^なく、老^おいて死^しせず。是^{これ}を賊^{ぞく}と為^なすと。杖^{つえ}を以^{もつ}て其^その脛^{すね}を叩^{たた}く。

原壤が立てひざをついて孔子を待った。

原壤は、孔子の幼馴染です。この人は老子の考え方を尊重しているから、わざと礼儀作法を無視する動きをしていたのでしょう。

孔子が「お前は幼い頃から目上の人を敬おうとしなかった。大人になっても、人さまから褒められることはないし、年齢をとって死にもしない。お前みたいな者をごく潰しと言うのだ」と言って、杖で原壤の膝を叩いた。

小さい頃から知っている幼馴染だからこそ、非礼な態度に腹をたてて、今からでも直しなさいと杖で叩いたのでしょう。孔子でもそういうことをするのですね。

自分自身を振り返って、原壤のような態度をとっていませんか？ 自分でよかれと思っ

サモサしているのが風格があつて良いなと感じる人もいるし、そうでない人もいます。政治家で齢をとつても髪の色だけが妙に黒々としているのを見ると、無理をしているようで首を傾げたくになります。齢をとつたら白髪になるのは当たり前、自然体がいいなと最近感じるようになりました。

【四七】^{けつとう} 闕党の童子 ^{めい} 命を ^{おこな} 將う。或 ^{ある} ひと ^{これ} 之を ^と 問いて ^{いわ} 曰く、^{えき} 益 ^{もの} せんと ^{もの} する者かと。子曰く、^{われ} 吾 ^そ 其の ^{くら} 位に ^お 居る ^み を ^み 見るなり。其の ^{せん} 先生と ^{なら} 並び ^ゆ 行く ^み を ^み 見るなり。^{えき} 益 ^{もと} を ^{もの} 求むる ^{もの} 者に ^{あら} 非ざるなり。^{すみ} 速 ^な かに ^{ほつ} 成らん ^{もの} ことを ^{もの} 欲する者なりと。

闕党とは、闕は孔子の生まれ故郷、党とは500軒くらいの家の単位です。

孔子が闕という村の少年に家の取り次ぎをさせていた。

ある客人が「この子は学問が向上して将来見込があるから取り次ぎをさせているのか」と尋ねた。

孔子が答えました。「そうではありません。この子は隅っこにいななければいけないのに大人の座る位置に座わり、長老の先生たちと肩を並べて歩いているのを見たことがあります。学問も途中であるのに、すぐさま一人前になろうとしている者です」

やる気はあるが実力が伴わないうちから出しゃばり過ぎる。長幼の序を教え、礼儀作法を学ばせるために取り次ぎの役をさせているのだと答えています。

何度も申しますが、論語は自分自身や現代に置き換えて考えてください。

小さい頃の教え方、教育、駢という部分で、今の世の中を見ると恐いと思うことがあります。先日テレビで見ましたが、或るマンションの住人たちの会合で、マンション内ですれ違う人に「おはようございます」や「こんにちは」といった挨拶をしないようにしようという提案があつて、賛成多数で承認されていました。提案したお母さんは、知らない人に声をかけられても返事をしてはいけないと教えているからだということです。賛成した人も、自分が挨拶をしても返さない人がいるから、挨拶をしたくないと言っていました。何かおかしい、世の中が少し狂ってしまったと感じました。

何かおかしいと思ったなら、原理原則に戻すべきです。論語に書いてあることをじっくり味わって、現代や自分の身の回りのことに照らし合わせてみると、原則から相当外れているなと感じます。

畏敬

本日のテーマは「畏敬」、恐れ敬うことです。恐れ敬う対象は人であったり、天地自然であったり、宇宙であったり、神様であったり…人によって違うでしょうが、何かを恐れ敬う気持ちは日本人に特に多い。ですから私は日本に生まれて良かったと思っています。恐れ敬う気持ちは持った上で、原点を考える必要があります。

中斎塾フォーラムでは、何か困った時には自分で良いと思う言葉、座右の銘を思い出すと良いとお話しています。そのもっと奥深く掘り下げてみると、＜人間が生きていられるのはなぜか＞ ＜天地自然の原則＞、そんなことを考えるようになりました。ですから自分が困った時、原理原則は何か、自分が学びたいと思った原点は何か、初心を思い出してみると良いでしょう。

おぎゃーと生まれた時のことは分かりませんが、もしかするとその意識が記憶の中に眠っているのかもしれないと、最近思うようになりました。人間は十月十日母親のお腹の中にいますが、その間に38億年前に人類が誕生してからの歴史を追体験しているのだそうです。本当かどうかは分かりませんが、さもありなんという気が致します。時々、自分が考えたのではないみたいだと思ふことがあります。咄嗟の時、人は本能で動くと言いますが、本能とはどこから生まれたのだらうと思ひます。本能という言葉で全部、38億年の追体験の歴史が表わされるのではないかという気が致します。

ですから論語も一所懸命掘り下げていくと、人類の誕生というところに繋がってくるのではないかと思います。御一緒にそういうものを学んで、体験して進めてゆこうと思っています。